



# KIRTI

## 20歳の僧侶、プンツォはなぜ焼身自殺したのか？

緊急アピール

チベットで中国武警が僧院を封鎖 一触即発の危機

チベット東部アムドのンガバ(四川省阿壩藏族羌族自治州阿壩県)にあるキルティ僧院で、中国武警が僧院を封鎖し、食糧の供給も絶つという異常事態が起きています。2008年3月のチベット蜂起から3周年になる今年3月、同僧院の若い僧侶が抗議の焼身自殺をし、僧侶や民衆が立ち上がったのがそのきっかけでした。SFT India などインド・ダラムサラのチベット NGO 5 団体は中国当局を非難する声明を発表。ヒューマンライツウォッチや米国国務省など国際社会もこの事態を注視しています。SFT Japan など国内のチベット関連 7 団体も、4月20日、菅首相と松本外相に中国政府への働きかけを要請する共同要請を送付しました。



2011年3月16日以降、チベット北東部のアムド地方ンガバをはじめとするチベット人居住エリアで、中国当局の武力を伴った抑圧が厳しさを増し、反発する地元チベット人との間で緊張が高まっています。なかでもンガバのキルティ僧院では、武装警察と軍が僧院を封鎖し、約2500人の僧侶が飲み物も食べ物もないまま監禁状態に置かれて数週間が経っています。僧院内に突入しようとする武装警察と軍から僧侶を守ろうと、多数の地元住民が寺院前に座り込んで警察と対峙し、住民に負傷者が出たという情報も伝わるなど、事態は一刻の猶予もない局面に至っています。(中略)

私たちは、チベットの NGO5 組織が発表した共同声明に賛同し、HRW の呼びかけが速やかに実現されるよう求めます。同時に、中国政府がこの非人道的行為をただちにやめ、人権を尊重した法治行政を実行するよう、国連人権条約に基づいた基本的人権尊重の精神に則り、日本政府から中国政府に強く働きかけることを求めます。

「私は、この事態のなかで何らかの暴発が引き起こされ、  
ンガバのチベット人にとって破滅的結末に至ることを深く憂慮している。」  
——ダライ・ラマ 14 世

あなたにもできることがあります

四川省党書記にンガバでの弾圧をやめるようメールを送ろう

SFT HQ では、四川省共産党の劉奇葆書記への要請を送れるオンラインフォームを用意しています。氏名、アドレス、国名を入れるだけで送信できます。Web サイトにぜひアクセスしてください。

<http://www.sftjapan.org/nihongo:ngaba>



スチューデント フォー フリーチベット ジャパン

STUDENTS FOR A FREE TIBET JAPAN